

平成 27 年 「論語」に学ぶ人間学セミナー  
ービジネスリーダーとしての生き方を求めてー[第 6 回]

- ・日時 平成 27 年 7 月 8 日 (水) 18 時 30 分～20 時
- ・会場 龍野経済交流センター 2 階会議所ホール (たつの市龍野町富永 702-1)
- ・内容 ①仮名論語 「雍也第六」  
②楽しい論語塾 「哲学者としての孔子 (2)」  
③子々孫々に語りつぎたい日本の歴史 「南京大虐殺」 ねつ造のからくり
- ・講師 英齋塾 (人間学探求) 塾長 三木英一氏
- ・受講料 無料 (教材 2,000 円)
- ・参加者 58 名

○受講内容

まず仮名論語「雍也第六」の素読をおこないました。

セミナーも後半になり素読もいつもよりまとまりがあるように思いました。

「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」知る者は、好んでやる者には及ばない。好んでやる者は、楽しんでやる者には及ばない。

確かにその通りですね。しかし、知る→好む→楽しむ になるまでの道のりはとても平坦ではないと思います。三木先生の場合は、さらに 楽しむ→遊ぶ だそうです。さすがです。

その後、楽しい論語塾より前回に続き「哲学者としての孔子(2)」の講義をしていただきました。

「詩に興り、礼に立ち、楽に成る」は、「詩に興り」感性が豊かで、「礼に立ち」社会人としてのルールを守り、最後に仕上げとして「楽に成る」音楽を奏でる。人間は知識だけでは駄目で、「バランスのとれた人になりなさい」という章句になります。君子たる者の基本教養とされていた「六芸」の中にも、礼も楽も含まれています。シンプルですが、とても覚えやすく、人間形成の段階においてとても大事な言葉だと思いました。

引き続き、子々孫々に語り継ぎたい日本の歴史から「南京大虐殺 ねつ造のからくり」の講義をしていただきました。

南京大虐殺において日本軍には虐殺の思想はなかったこと。あいまいな証言で構築された大虐殺。日本の罪づくりをしなくてはいけないアメリカの思惑等を説明していただきました。そして最後に情報は難しいこと。偏った情報やマスコミに惑わされないように。いろんな立場・意見を聞く力が必要だということを教えていただきました。

今回のセミナーも時間の限られた中で、たくさんのことをわかりやすく講義していただき有意義な時間となりました。

次回、第 7 回も受講される皆様により良いセミナーとなるようお手伝いさせていただきながら、実のあるセミナーづくりを心がけたいと思います。